朝刊太郎改を公開

新聞編集に特化 18年ぶり正式版

新聞専用のＤＴＰフリーソフト「朝刊太郎改」が正式公開された。記事操作だけでなく見出しや画像など新聞独自の編集が手軽に行える。20世紀末に初公開された旧「朝刊太郎」の後継版。基本操作はおおむね踏襲しつつ、大幅な機能強化が図られている。正式版としては18年ぶりとなる。

「朝刊太郎改」の開発画面（画像はぼかし処理）。ソースコードは計10万行を超える

本格的な「新聞」を作成するための機能を備える。新聞独特の見出しはもちろん、写真の説明文処理、コラムや連載等の箱組も作れる。

記事処理は、新聞独自の禁則処理を実現。ワープロなどの一般的な「ぶら下げ」や文字詰めで無く、常に行末が揃った美しい体裁を可能にしている。

操作に習熟すれば、大手新聞とほぼ同一の紙面を作成することも（天気図など特殊なものを除けば）不可能ではない。

多段組という形態に合わせた組版処理も直感的かつ簡便に行える。位置を正確に決めなくても、アバウトに指定すれば右か左の端にくっつく「置く」、記事スペースを決めなくても、適正な位置で折り返す「畳む」。さらに見出しと記事を同時にブロック化して配置する「抱え畳み」。こうした操作が、最低限のマウス操作で実現できるように工夫されている。

同時に、見出しや画像を置く部分を仮に決め、記事等を配置後に見出し・画像に変える「仮空白」機能を用意。先にレイアウトを終えてからの編集も出来る。

縦組・横組両方に対応。横書きの紙面作成ももちろん可能で、一般的な縦書き紙面の中に横書きの箱組を置くなど変化を付けた編集も可能だ。

学校新聞など定期的に発行するための工夫も満載。

4ページ建てなど複数ページの新聞を1枚の用紙に表裏印刷するマルチ印刷機能、いったん作った紙面や箱組の「型」だけを保存し、何度でも呼び出して再利用できる「雛形」。使えば使うほど、短時間で紙面が作れるようになっている。

太郎通信

1月1日（仮）

新聞専用DTPフリーソフト
朝刊太郎改
chokantaro.com

きょうの紙面
2 強力な全文検索機能
3 ルビや異体字に対応
4 「雛形」で素材再利用

見出し エトキ 箱組 必要機能を網羅

ワープロや汎用ＤＴＰソフトでも多段組の新聞形式の文書は作成できるが、見出しや写真説明を適切に作ろうとすると手間が掛かる。本ソフトでは、こうした新聞独自の素材をあまり手間をかけずに用意する工夫が凝らされている。

文字サイズの異なる複数の文を組み合わせる見出し。全体の大きさを決めれば、あらかじめ文字サイズやバランスを適切に設定したパターンを複数提示。選んで、文字を打ち込むだけで〝新聞見出し〟が完成する。文字扁平や多彩な地紋も設定できる。

写真の上下左右に説明文が付いた、いわゆる「エトキ」も同様だ。エトキ文（説明文）も、専用画面で位置を選んで文字を打ち込むだけで完成する。文字サイズも記事本文に合わせた適切な大きさが事前設定される（変更可能）。写真の一部だけを切り取るトリミングはマウスでもキー操作でも直感的に行える。

紙面のアクセントになったり、凝った紙面作りに活用できる「箱組」も作成できる。見出しと同様、文字組や段間の置き方など標準的な設定を施した複数パターンがあらかじめ提示され、紙面設定より難しい段間の計算など、面倒な設定を省略できる。こうした標準パターンを後から変更も出来る。

なおこの記事の両隣は箱組だ。

これらの素材はひとつの固まりとして扱えるため、紙面からいったん外して別の位置に再配置したり、紙面上で直接移動するなど、部品感覚でレイアウトできる。

置く 流す 畳む 抱え畳み
独特の組版 直感的操作

一般的なワープロやＤＴＰソフトと異なる独特の新聞組版を直感的な簡易操作で行える。

見出しや画像を紙面に配置する「置く」作業。だいたいの位置をダブルクリックすれば最も近い素材か紙面端に自動的にくっつく。記事を区切る縦の罫線は、矩形等のだいたい近くをドラッグすれば、やはり密着する。

記事もアバウトな位置指定で、右の素材の隣から流れる。事前に記事領域を決める作業は不要。指定の段数で折り返す「畳み」は、２点を指示するだけ。右あるいは左に、自動計算された適切な幅で折り返す。最初は流し、途中の段から畳む「部分畳み」も同様に可能だ。

見出しを右上に、残りの記事を折り返して、四角い領域に収める「抱え畳み」もやはり２点指示だけ。記事と見出しと写真２枚までを一気に抱え畳むことが可能だ。もっと単純に、見出しを右側に配置して、隣から記事を流す「置き流し」も、１点指示だけで出来る。

もちろん、配置する素材を作成する前に、あらかじめ領域を取っておく「仮空白」も使える。ここから見出しや画像、さらに箱組を作れる。先にレイアウトをだいたい固めておく方式の紙面作成も簡単だ。

充実ヘルプ 100㌻超

作者サイトのオンラインヘルプは総１０７㌻。豊富なスクリーンショットで使い方を解説している。紙面例も多数。

操作中にＦ１キーを押すと、関連するヘルプ一覧が表示され、ブラウザで該当ページを開ける。ヘルプ内の全文検索も出来る。

サイトには操作動画やＱ＆Ａも用意している。

独自の禁則 自動で実現

ワープロなどとは異なる、新聞独自の禁則処理が自動で行われるのも特徴である。

句読点や括弧類など、文頭・文末には配置できない禁則文字。ワープロのようなカーニングやぶら下げでなく、句読点等の約物を半角分の領域で描画する。半角描画ができない場合は、文字間を均等に空ける。本ソフトでは、これらの処理を、完全に自動で行う。

これにより、文字が基本的に升目に揃い、さらに常に行末の文字が揃う美しい体裁を保つ。

同時に、縦書きの場合、半角連数字を縦組にする、いわゆる「行中縦」も自動的に行う。

また、自動処理だけで無く、強制的に文字間を空けたり、逆に半角描画分を増やすことも出来る。これにより、記事本文を１文字も変えずに、行数を増やしたり減らしたりすることも可能だ。

開発手帳

20世紀末に旧「朝刊太郎」を公開して四半世紀近く。こんなに長く使用され続けるとは全く想定していなかった。あまりに古いPC環境をベースに作られた旧版を、できるだけ機能や操作性は維持しつつ、今後も使用可能なように全面改良した「朝刊太郎改」が、ようやく完成した。大量の新機能も追加された▼この20年余りでニュースはネットで読む習慣がますます根付いたようだ。けれど、あらゆる情報が並列して更新され続けるニュースサイトと違い、新聞はある時点での情報の重要度と意味をはっきり可視化する。ある種、特殊で独特な表現手段だ▼新聞の編集作業には、情報の価値を見極める判断力と、端的にまとめる日本語力、さらにそれらを効果的に配置するデザイン力が必要。難しいが、知的で楽しい作業でもある。それは、真面目な一般新聞に限らず、学校新聞や地域通信でも共通だろう▼新しい朝刊太郎のソースコードは10万行超。個人開発としてはそろそろ限界かもしれない規模に膨れ上がった。障害報告などユーザの協力にも期待したい。

記事本文およびノンブルのフォントはWindows標準のBIZ UD明朝とBIZ UDゴシック。見出し用はオープンソースの源様明朝(Ver1.3)および源真ゴシック等幅を使用しています。

CC BY ND
このＰＤＦはＣＣライセンスで配布され、営利･非営利を問わず自由に利用できます。改変は不可です。

ショートカットキー充実

主なショートカットキー	
タグ（文字修飾）操作	
太字にする	Ctrl+B
ゴシックにする	Ctrl+G
ルビを付ける	Ctrl+R
末尾揃えにする	Ctrl+End
タグ囲み範囲選択	Ctrl+T
選択タグの編集	Ctrl+E
選択タグの削除	Ctrl+D
選択タグ全削除	Crrl+Alt+D
1文字追い出し	Ctrl+O
紙面上素材の移動	
1段上下に移動	↑ / ↓
1行左右に移動	← / →
1文字分上下移動	Alt+↑ / Alt+↓
紙面上素材の拡大・縮小	
1行分拡大	Ctrl+L / Ctrl+R
1行分縮小	Shift+Ctrl+L Shift+Ctrl+R
1文字分拡大･上	Ctrl+Alt+U
1文字分拡大･下	Ctrl+Alt+D
1文字分縮小･上	Shift+Ctrl+Alt+U
1文字分縮小･下	Shift+Ctrl+Alt+D
画像編集	
トリミング開始	Shift+Ctrl+Alt+T
画像の拡大 縮小	PageUp / PageDown
使用部分の移動	↑↓←→
トリミング終了	Enter
見出し編集	
見出し文の移動	Ctrl+↑↓←→
メーン画面	
紙面を全体表示に	Ctrl+W
紙面を再描画する	F5
紙面内の全文検索	Shif+Ctrl+F
レイアウト操作	
仮空白の作成	Alt+Space
各種編集画面	
保存して編集終了	Shift+Ctrl+S

アクセラレータキー（一部）	
紙面上の素材 共通	
紙面から削除	D(elete)
名前 グループ名の変更	N(ame)
グループ名一括変更	G(roup)
紙面上の素材 矩形	
雛形化した複製を作る	C→C
完全な複製を作る	C→A
素材を仮空白で置換	K
真下の段罫削除	Q→Q
紙面上素材 記事の操作	
再流し	X

操作を手早く行うショートカットキーが100種類以上用意されている。頻繁に紙面を作成する場合、覚えれば大幅に作業効率が上がる。

特に一部ゴシックなど文字修飾のタグ用のショートカットは、記事編集画面、見出し、写真説明文で共通。ゴシックは［Ctrl+G］、ルビは［Ctrl+R］など覚えやすいキー設定になっている。また、タグの再編集や削除には、まず範囲選択する必要があるが、マウスのダブルクリックやドラッグよりも［Ctrl+T］を使えば一発で楽に選択できる。選択状態で［Ctrl+D］を押せばタグ削除になる。

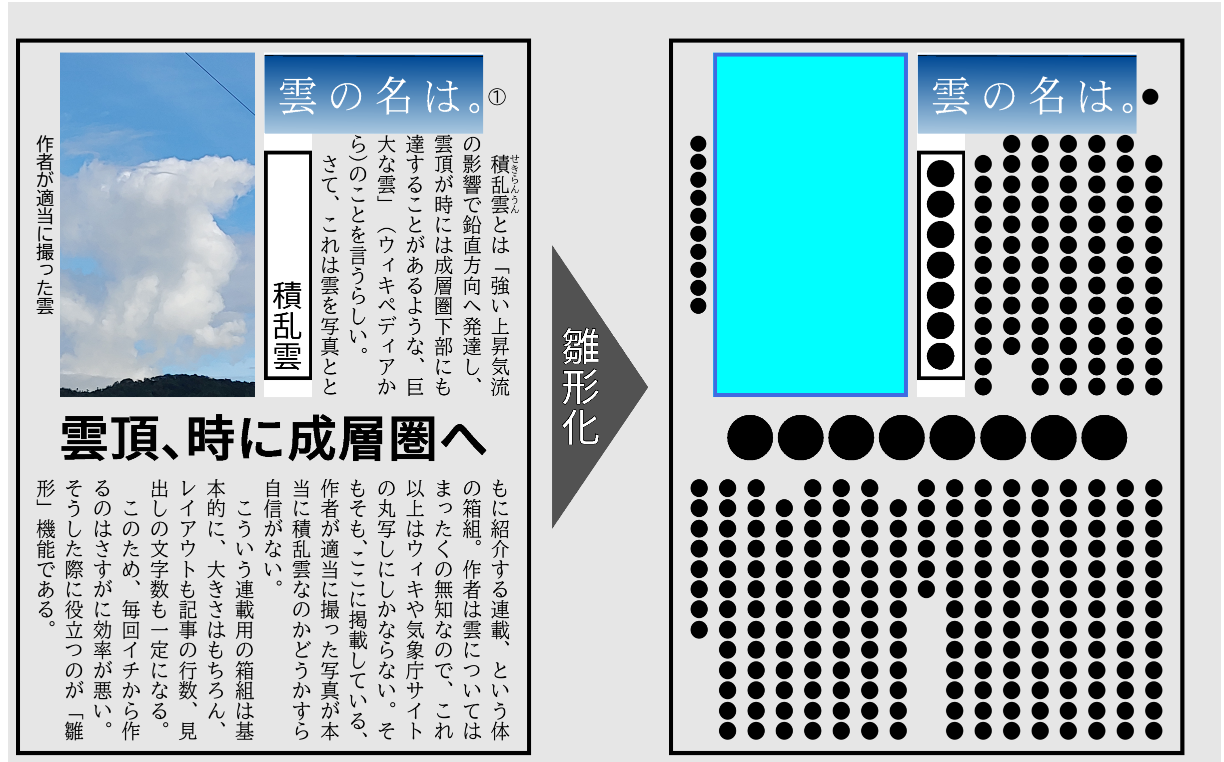
紙面上で矩形の拡大・縮小・移動はマウスドラッグで可能だが、１行単位、１文字単位の微妙な操作だとキー操作の方が確実に行える。

記事、見出しなど各種の編集画面では特に［Ctrl+Shift+S］で一気に保存終了できる。箱組の中の写真を編集している場合など、ShiftとCtrlを押したままＳキーを連打すれば、すべて保存終了した状態で紙面に戻れる。

作者が特にお勧めなのは、クリック位置から幅いっぱいの仮空白を作る［Alt+Space］キー。トップの横見出し用の仮空白等はもちろん、食い込んだ矩形に幅ぴったりに作成するときなど、レイアウト操作の強い味方になるだろう。

右クリックメニューでのアクセラレータキーもMoveの［M］キーが移動、Nameの［N］が名前変更など、覚えやすくなっている。

また、例えば矩形を右クリックして［Q］を連打すると真下の段罫を削除、［C］を連打すると雛形化した複製を作れる。記事の右クリックから［K］での再流しは、レイアウト変更の際に便利。


雲頂、時に成層圏へ

積乱雲とは「強い上昇気流の影響で鉛直方向へ発達し、雲頂が時には成層圏下部にも達することがあるような、巨大な雲」（ウィキペディアから）のことを言うらしい。

さて、これは雲を写真とともに紹介する連載、という体の箱組。作者は雲については全くの無知なので、これ以上はウィキや気象庁サイトの丸写しにしかならない。そもそも、ここに掲載している、作者が適当に撮った写真が本当に積乱雲なのかどうかすら自信がない。

こういう連載用の箱組は基本的に、大きさはもちろん、レイアウトも記事の行数、見出しの文字数も一定になる。このため、毎回イチから作るのはさすがに効率が悪い。そうした際に役立つのが「雛形」機能である。

作者が適当に撮った雲

「雛形」登録で作業を効率化 箱組や見出し、画像も

紙面を含めたあらゆる素材は「雛形」として保存し、別の紙面で呼び出して再利用することが出来る。

雛形は単なる複製（コピー）と違い、例えば文字部分が「●」などの記号で置き換えられたりしたもの。一部を記入するだけで完成する。シンプルな複製だとうっかり変更を忘れるミスもあるが、雛形ならその心配はない。

見出しの場合は、文字部分のみを記号にした雛形が作成できる。複雑な地紋設定や、細かな割見出し指定など、手間が掛かる作業が最初だけで済む。

画像の場合は、例えば画像は仮画像に変換した上で、説明文は記号で埋めたり出来る。特に、マージンや説明文に色付けしている場合に雛形化しておくと手間が省ける。

そして上図の例にあるように、箱組も雛形化できる。新聞に毎号載せる連載などで便利。箱組の場合は、雛形化の専用画面で見出し・画像・記事ごとに、雛形化するか、単に削除するか、あるいはそのまま残す（複製）か細かく指定できる。

特に画像に関しては、ラスタ画像とベクタ画像で分けて指定できる。上図の例では、連載タイトル「雲の名は。」をEMF画像で作成している。このため、タイトル部分は、回数表示だけを写真説明文で打ち込めば済むようになっている。

当然、紙面全体も雛形化できる。一般紙の一面のように、題字や紙面メニュー、コラムなど置き場が決まっているものが多い場合、とても便利だ。

なお同じ紙面の中でも「雛形化したコピー」を作成できるので、紙面内限定の再利用もできる。

箱組の雛形化画面。EMF画像だけ「内容維持」指定

定期発行 強い味方

学校新聞や社内報など継続的な発行に役立つ機能が満載。一度作った紙面や箱組、見出し等の素材を、最低限の操作で再利用できる「雛形」機能。４頁建てなど複数頁を一気にプリンタで印刷できる「新聞印刷」。マウスいらずで編集操作が可能なキー設定も充実している。

「新聞」一気に印刷 複数頁 センターワイドも

たとえば一面から最終面まで計8ページあるような新聞を、一気に印刷できる。

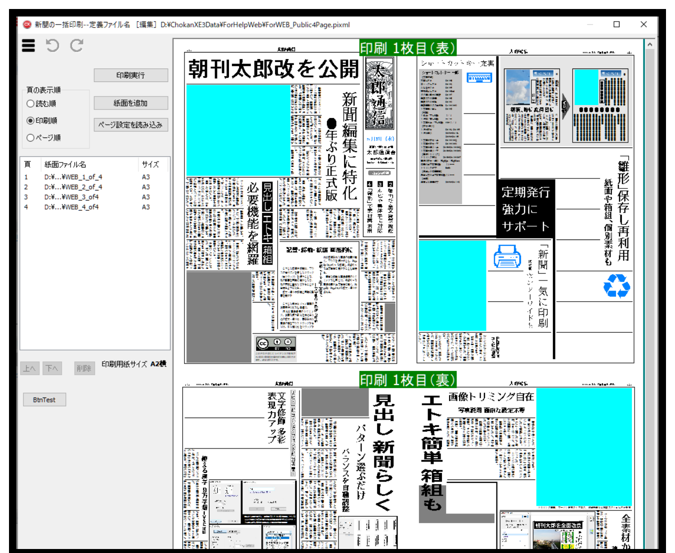
表裏２ページはもちろん、4頁建て、8頁建てと、一般紙のように４の倍数になっているページ数なら、表裏印刷機能の付いたプリンタがあればよい。中央の２頁分を横長１頁にする、いわゆる「センターワイド」も印刷可能だ。

全ページの紙面を編集し終えたら、複数頁用の専用画面を開き、すべての紙面ファイルを選択して、ページ順を指定するだけでＯＫ。プレビューではページ順のほか印刷そのままのイメージも確認できるので、間違いにくいだろう。

複数頁の情報はファイルとして保存できる。いったん指定しておけば、２度目からは自動で選択されている。、同じ紙面ファイルを使って、４ページ建てや８ページ建てなど複数の組み合わせも保存可能。

なお、６ページ建てなど中に半分サイズの「ペラ」が混じる新聞の場合は、まず１・２・５・６の計４面分を１枚の用紙に印刷し、その後、３・４面を半分サイズの用紙に表裏印刷して挟む。そんな工夫で「新聞」が完成する。

ただ、例えばＡ４サイズ４ページ以上の新聞を印刷する場合、その２枚分、つまりＡ３対応のプリンタが必要になる。対応プリンタがない場合、プリンタの縮小印刷機能を使う。



４頁建ての新聞を一気に印刷するためのプレビュー画面

ＰＤＦ出力でコンビニ印刷

プリンタがなくコンビニ等で印刷したい場合、ＰＤＦ出力が利用できる。

印刷時、プリンタとしてＰＤＦプログラムを指定するだけ。表裏印刷できない旨のメッセージが出るが、そのまま作成。ページが区切られた形でＰＤＦが作成される。

コンビニでは、ＰＤＦを入れたＵＳＢメモリなどを使い、表裏印刷の指定をして実行する。なお４頁を超すものは、２つ以上のＰＤＦを用意する。

（作者は一部のコンビニでのみ実際にテストしている）

記事 好みのソフトで作成・編集 画像

操作に関しては、自分の使い勝手の良いように、ある程度は好みの環境に変えられる。［動作環境の設定］画面で設定する。

まず、記事作成時にデフォルトで外部のエディタを起動するよう指定できる。さらに、必ず起動する特定エディタの指定も可能だ。

付属の記事エディタは、新聞独自の禁則処理に対応した行数管理や、さまざまなタグ操作ができる機能が備わっているが、文章を打つエディタとしては最低限の機能しかない。長い記事を頻繁に書きたい人は、気に入ったエディタをいつも使えると便利だろう。

罫線を引く際には、初期設定では、まず罫種の選択画面が開く。しかし、いつもだいたい同じ罫線を選ぶのなら、あらかじめ決めておくことも出来る。いちいち罫種選択しなくて済む。

また、画像の細かな色合い調整など外部ソフトを頻繁に使うのなら、画像編集画面から常に同じアプリーションを呼び出すようにも出来る。このほか、編集時の自動保存のタイミングや、仮空白ダブルクリック時の挙動などを選べる。

CC BY ND
このＰＤＦはＣＣライセンスで配布され、営利･非営利を問わず自由に利用できます。改変は不可です。

エトキ簡単 箱組も

トリミング何度でも

写真説明 面倒な設定不要

写真を拡大・縮小しつつ、使う部分を決めるトリミング。画像の一部を隠したり、あるいは特に強調したい部分だけを表示する。集合写真から1人の顔写真を抜き出すこともある。

本ソフトのトリミングは元の画像に影響を与えない。何度でもやり直せる。大きく使う予定だった写真を、途中から小さいサイズにしたり、その逆も可能だ。

トリミングはマウスのドラッグだけで直感的に行え、キー操作だけでも可能。大きくはマウスで、細かな調整はキー操作、と使い分けると楽だ。

新聞形式の写真説明も、細かな設定は不要。説明文を入力するだけだ。上下左右の位置もボタンクリックだけで切り替えられる。

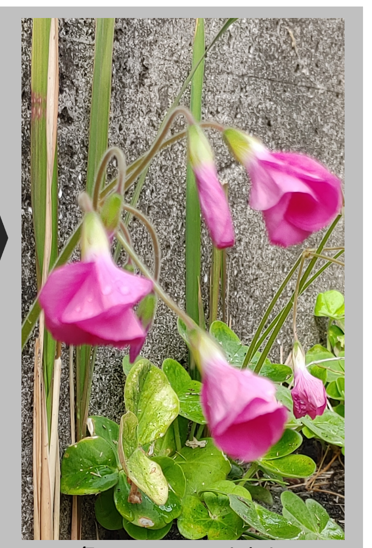
説明文は記事と同様の文字修飾が可能。ルビ（振り仮名）や一部のゴシック・明朝化、さらに署名部分の末尾揃えなど一通りの修飾が出来る。ルビを付加した場合、説明文領域は必要に応じて自動的に拡大する。

同時に、簡単な画像や説明文への色付けも。全体を罫巻き風にしたり、説明部分を色付けできる。

段の途中で記事と当たる「食い込み」の場合、適切に余白も設定できる。

画像の加工機能はないが、編集画面から好みのグラフィックソフトを呼び出せ、編集結果は即座に反映される。

冬のアスファルトにひっそりと咲く花



冬のアスファルトに
ひっそりと咲く花

まったく同じ写真を使った２つの画像。サイズの大きな左側より、花部分をトリミングした右の小さな方が目立つ。なお、全体の大きさ変更に伴い、写真説明文は自動で２行に増えている。

罫巻き・文字組変更・自由段間…

紙面のアクセントになったり、凝ったレイアウトに役立つのが「箱組」。段間のサイズを変更できるなど、通常の紙面より柔軟な指定が出来る分、設定は少し難しい。ただし、作成の際には、見出しと同様に、大きさに応じた一般的なパターンを列挙。事前に大体の形をイメージできていれば、面倒な設定作業を省略できる。

段間は、1段目の上と、最下段の下にも作れる。

紙面の記事は基本的に、共通のフォントを使うが、箱組だけフォントやサイズを変えられる。

またいったん作成した箱組の設定変更画面は、紙面設定とほぼ同一。覚えた設定方法を活用できる。余白についてはさらに詳細な設定も可能になっている。

この箱組でも指定しているように、箱組を囲む罫線も、上下左右の方向はもちろん、一部をカット可能。他の素材と重ねた際に線が被らないようにも出来る。

背景や文字色の変更も

多彩な「型」から選択

また、一部を領域からはみ出す指定もＯＫ。この新聞の4面にあるように、罫線とくっつけて紙面に一体感や迫力を増す効果を生む。

紙面とは別に、箱組そのものへの色付けや文字色の設定が可能。例えば、黒ベタ背景に白抜き文字にすれば、インパクトが出せる。

箱組の編集作業は紙面とほぼ同一。特別に覚える操作はない。

箱組内の素材は、紙面と同様に作れるが、作成時に既にある記事や画像を同時に取り込める。作成後に親紙面から持ってくることも当然可能だ。

無制限「やり直し」

アンドゥ・リドゥ 主要画面で実現

素材の配置や削除などあらゆるレイアウト操作では無制限のアンドゥ・リドゥができる。ちょっとした操作ミスをやり直したり、さらにはやり直しすぎたのを元に戻せる。

アンドゥ・リドゥはメーン画面だけではない。記事・見出し・画像、さらにノンプルと、素材のすべての作成・編集作業で可能だ。

記事編集画面では、一文字ごとの追加や削除など変更のたびにアンドゥ情報が蓄積される。見出しの場合は、文言はもちろん、背景や文字修飾もやり直し可能。特に文字効果と背景の詳細設定中は、細かな設定ごとに元に戻せる。また画像の場合、トリミングはもちろん、説明文の編集も対象になっている。

なお、メーン画面から記事・見出し・画像を作成・編集すると、メーン画面上のアンドゥ・リドゥ情報はクリアされる。これにより、記事や写真説明の文字修正を知らぬ間に元に戻すなどのミスは防げる。

素材編集でも、罫線の線種変更など、右クリックメニューから行う操作は、アンドゥ・リドゥ対象。記事フォント変更も体裁を確認しながら試行錯誤でき。

全素材から文字検索

複数紙面対象も可能

ワープロやエディタと異なり、複数の文章が別個に存在する新聞紙面。専用の記事編集画面では個々の記事について、普通のエディタ等と同様に文字列の検索・置換が行えるが、紙面全ての記事等を対象に一気に文字検索する機能も備えている。

記事だけでなく、見出しの文言や写真説明文も検索対象に含められる。つまり紙面内の「全ての文字」が検索可能。箱組内まで検索するかどうかも選べる。もちろん、記事だけとか、写真説明文だけを対象にも出来る。

例えば▽「コンピュータ」と「コンピューター」が混在している場合などの用語の統一▽間違えやすい人名や地名などのチェックなどに役立つ。

検索結果は一覧表示だけでなく、紙面上でもハイライト表示され、どこに文字が存在するか直感的に把握可能になっている。

現在編集中の紙面だけでなく、指定フォルダ内のすべての紙面ファイルからの全文検索も可能だ。それぞれの紙面に、指定文字列がいくつあるか、一覧表示される。フォルダ配下のフォルダを含むことも除外することも出来る。

さらに全文検索では<b>や<ruby>といったタグ文字列を検索対象に含むかどうかまで選択可能。このため、たとえばルビを振った文字列だけを探し出すことも可能だ。

紙面内の全素材から「新聞」を検索した結果。個々の文字は赤で強調され、対象素材ひとつずつをハイライト表示できる

部分ぼかしで紙面を画像化

作成した紙面は印刷したりＰＤＦ化するだけでなく、ＪＰＥＧなどの画像として保存できる。新聞をネットのサイトに公開する時などに役立つ。

個人情報等を配慮して、一部をぼかして画像化する機能も付いている。例えば、記事部分は隠したり、あるいは画像だけはぼかすなどの処理も可能。ぼかしの強度はプレビューを見ながら調整できる。

このＰＤＦはＣＣライセンスで配布され、営利・非営利を問わず自由に利用できます。改変は不可です。

覚えておきたい 新聞・編集用語

箱組　紙面に変化与える

紙面の中で、枠線などで四角に区切って記事等をひとまとめにする組み方。「ボックス組」などとも言う。ワープロの「テキストボックス」に少し似ているが中に見出しや画像が入れられるのが特徴。

単調になりがちな紙面に変化を付ける効果もある。一風変わった話題や連載等で使われることが多い。一般紙一面の名物コラムはたいてい箱組だ。縦組紙面に横組の箱を組み合わせたりもする。一方で、一番目立つトップ記事を箱組にする手法もある。

また紙面を複数の箱組だけで構成したり、紙面全体を箱組にするケースもある。

箱組では、段間を自由に拡大し、そこに見出しを置いたり、正段でない画像を置くことも出来る。見出しや画像の矩形は[またぎ]属性となり、記事がまたいで流れるのが通例。一般に段罫はない。

単位「倍」　記事本文との比率

見出しで使う大きさの単位。紙面の記事部分の文字サイズとの比率を表す。紙面記事が９ptなら１倍は９pt、２倍は18pt。

文字サイズが異なる紙面でも、１段の文字組が一緒なら、「３段の見出しは○倍の○文字」と覚えておけば、同じ効果が得られる利点がある。小さな見出しは２倍、通常は３倍、トップに使うなら４倍、といった具合。

一般に、見出しの文字サイズは1.5倍以上、記事本文文字が扁平の場合は２倍以上を使えば、紙面に埋没しない。

他の単位を使いたい場合は、見出し作成・編集画面で、メニュー→［仕様単位と刻みの変更］で設定できる。一般的なポイント(Pt)なども使える。新聞業界で使われる「倍」（1000分の11インチ＝2.2352ミリ）とは別物で、こちらは本ソフトでは「正倍」と呼ぶ。

ノンブル　欄外に新聞名や頁

紙面の欄外上部に置かれる。新聞名や日付などを記載された部分。ワープロで言うヘッダーに近い。一般紙の場合は版名（７版、13版など）やページ種別（社会、スポーツなど）、さらに第三種郵便物認可を記載している。

４頁建て以上の新聞の場合、ページ番号は奇数ページなら左端、偶数ページは右端に置くのが通例。見開きで見た場合、両端でページ番号が分かるようにする。

ノンブルは専用画面でプレビューを見ながら簡単に設定できる。文字列のサイズや修飾設定は、見出しと共通。扁平や地紋設定も当然できる。

他素材と同様に雛形として保存できるので、いったん作ってしまえば、他の紙面から呼び出して、日付やページ数を変えるだけでよい。なお紙面全体を雛形化した場合、当然ノンブルも雛形化される。

見出し 新聞らしく

基本パターン用意

バランスを自動調整

新聞独自の見出しや、写真の説明文が付いた「エトキ」。本ソフトでは、一般的なＤＴＰソフトやワープロでは作成に手間が掛かる素材を手軽に作成するための工夫が凝らされている。適切な文字サイズとバランスがあらかじめ用意された見出しパターン。自動的に画像との空きが調整される写真説明文。最低限度の操作で新聞らしい素材が作れるようになっている。

大きさの違う10文字前後の文字列を複数組み合わせる、新聞独特の見出し。本ソフトでは、こうした新聞見出しを手軽に作成できる機能を備えている。

全体の大きさに応じて、シンプルな1本見出しや一般的な2本見出し、さらに頭付きなど、一通りのパターンを提示。適切な文字サイズがあらかじめ指定されるので、選択して文字を入力すれば、新聞らしいバランスの取れた見出しができあがる。文字サイズは大・中・小の3パターンから選べる。

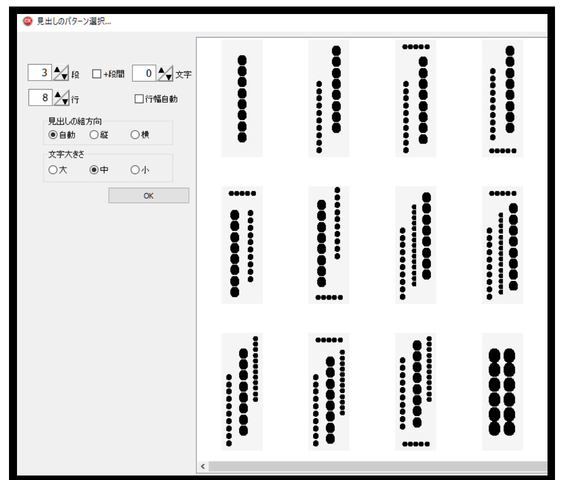
もちろん、パターン選択した後で、本数を増やしたり減らすことも出来出来る。文字サイズの変更も当然可能だ。

見出し文の上下左右の位置も、新聞独自のバランス「ちどり」を自動設定。位置を手動で指定しなくても新聞らしいバランスに配置される。

一方で、変則的な見出し用に、位置の自動調整を天地のみ、左右のみにそれぞれ限ったり、あるいは完全に任意な位置に自由に動かすことも可能だ。

2本見出しをほぼ下揃えにする近年の新聞業界の流れに対応。一定以上の長さの2本は自動で尻揃えに近くする。短い場合は伝統的なちどりになる。

見出し画面で選べるフォントは、初期値では、ＰＣにインストールされた全フォントから、日本語対応の等幅フォントだけを提示。うっかりプロポーショナルフォントを選んで、がたがたの体裁の悪い見出しになるのを防ぐ。［動作環境の設定］で、画面で使えるフォント候補をさらに絞り込んだり、あるいはあえて非等幅フォントを追加することも出来る。



見出しパターンの選択画面。大きいほど、選べるパターンが増える

地紋40種類 自動縁取り

新聞業界では消えつつある地紋も、縦線・横線・斜線・渦の4タイプ計40種類を準備。その形状も四角以外に角丸、楕円、台形、三角、円弧、食い込み円と50種類以上の多彩なパターンを用意している。一昔前の新聞風地紋を使える。

文字部分も色を付けたり、グラデーションにしたり、さらに上記の地紋を文字部分に設定する「地紋文字」も可能。

文字の縁取りは、背景と文字色から自動で白黒切り替え。独自の色設定や敢えて縁無しにもできる。スポーツ紙風の二重縁取り効果もある。

影付き効果は、背景にも文字にも設定できる。映り影と立体影の2種類があり、ずらし位置は上下左右に0・1ミリ単位で細かく指定できる。

グラデーション効果も同様で、背景と文字それぞれで指定可能。

ルビや傍線 多彩な修飾

ルビ・一部ゴシック・フォント部分変更…

記事や見出し、写真説明といった文字を表示する場面では、新聞らしい文字修飾が使える。

文字の一部をゴシックや太字にするほか、部分的に別のフォントに簡単に変えられる。

例えば一部ゴシック化する場合、いちいちフォント名を指定する必要はない。後述するタグを挿入すれば、記事の場合は、あらかじめ決めておいたフォントに、見出しの場合は現在のフォントに対応したゴシック体に自動的に切り替わる。

ルビ（振り仮名）も打てる。読みやすさを優先した全体ルビと、文字と個別に対応する個別ルビの2種類を準備している。写真説明の場合は、ルビの有無で説明文の領域も自動的に変わる。

フォントの部分指定は、ＰＣにインストールされた全フォントが選択対象。見出しや本文に不向きなフォントを、1文字だけ使って変化を付けたりできる。

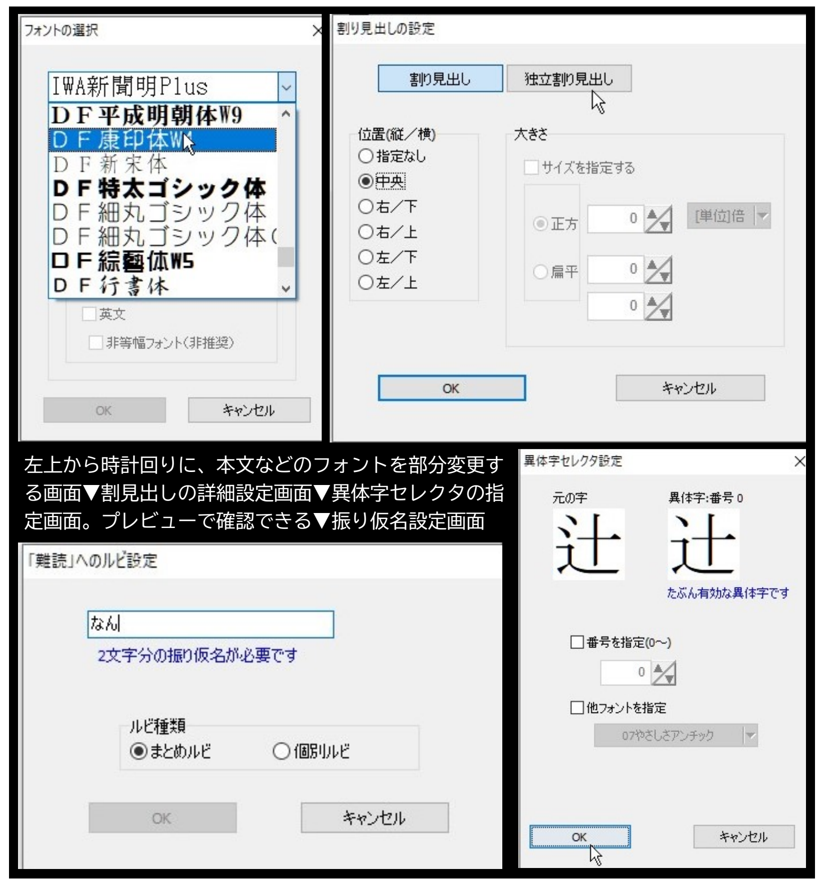
記事や写真説明の場合は、さらに傍線も引ける。

また、見出しの場合は、一部だけ文字サイズが変更可能な「割見出し」機能がある。見出しの上に小さくついた文字も手軽に使える。これもまた、背景や扁平率が本体と同じ都城の割見出しと、本体と別設定可能な「独立割見出し」の2種類を準備。特に後者を使えば、1本の見出し文で背景等を変えるなど凝った表現も可能になる。

記事の署名や写真説明の撮影者クレジットなど、文章の末尾部分を「尻揃え」にする機能もある。いちいちスペースを打って調整するような面倒な作業は不要だ。一度指定しておけば、本文部分の文字数が変わって常に末尾になる。

これらの修飾は、ＨＴＭＬに似たタグ方式を採用。ホームページやブログ等を運営している人には、馴染みやすいだろう。とはいえ、特別な知識は必要なく、修飾したい部分を選択して、ボタンを押すだけで簡単に設定できる。

タグの再編集も簡単。ダブルクリックで対象範囲を自動選択、ボタンひとつで編集画面が出せる。



左上から時計回りに、本文などのフォントを部分変更する画面▼割見出しの詳細設定画面▼異体字セレクタの指定画面。プレビューで確認できる▼振り仮名設定画面

「わたなべ」の「なべ」の異体字計47（字雲フォント利用）

【辺】辺【邉】邉邉邉邉邉邉邉
邉邉邉邉邉邉邉邉邉邉邉邉邉邉
邉邉邉邉邉【邊】邊邊邊邊邊邊
邊邊邊邊邊邊邊邊邊邊邊邊邊

祇▼祇　辻▼辻　芦▼芦

ＩＶＳ対応 漢字10万超

タグでは異体字セレクタにも対応。1点しんにゅうの「辻」やネ偏の「祇」なども使える。渡辺の「辺」の膨大な異体字も表現可能だ。

フリーの字雲フォントを併用すれば、10万を超す漢字が表現できる。記事の一部だけフォントを変更することも出来るので、異体字セレクタ未対応のフォントを使っていても、異体字部分だけを変えられる。

指定時はプレビュー画面を表示。実際に字形を確認しながら指定できる。

「ミニ記事」で大量情報

スポーツ大会の記録や表彰名一覧、人事情報など、人名や数字が大量に並ぶ記事は、紙面の中でスペースを取りがちだ。こうした記事は通常の記事部分より一回り文字を小さくし、行間を狭くすることでスペースを節約して収容できる。

操作は簡単。文字の大きさは記事エディタで［文字サイズの設定］をクリックし「ミニ文字」を選択するだけ。例えば12文字組の紙面なら一文字多い13文字にぴたりと収まる文字サイズが自動的に設定される。「ミニミニ文字」を選べばさらに一文字多い14文字用のサイズになる。

行間も［やや狭い］［かなり狭い］などから選べば、本文部分と比較して適切な行間が指定される。0・1ポイント単位で任意の値も設定できる。

このＰＤＦはＣＣライセンスで配布され、営利・非営利を問わず自由に利用できます。改変は不可です。

覚えておきたい 新聞・編集用語

仮空白　レイアウトの基本

紙面作成する場合、見出しや画像をいきなり配置することももちろん可能だが、先にレイアウトをしておきたい場合に使うのが仮空白。後から見出しや画像、箱組に変えられる。灰色で表示される。

先に記事だけを流し、紙面を仮に完成させておいて、後から見出しの中身を考えることが出来る。写真やイラストはまだ無いが、あとから入れる場合にも便利。

仮空白は他の素材と同様に、拡大・縮小したり移動したりできる。一度紙面から外すと、無くなるので注意が必要。

特殊な仮空白として、画像専門の「予約画像」もある。色付けされてレイアウトが分かりやすくなる。写真説明も付けられるので、後から撮影した写真に差し替えることも出来る。仮空白から右クリックメニューで作成可能。

罫線・段罫　区切りをくっきり

多段組の新聞では、通常、段と段の間に線を引き、区切りをハッキリさせる。これを「段罫」と呼ぶ。狭い段間でも読みやすさを保つ効果がある。これにより限られた紙面で多くの文字を収容できる。

横見出しの真下など、あえて段罫を削除することで、記事のブロックをハッキリさせることもある。削除するケースは、ヘルプで詳説している。

箱組では、段罫を無くすことが多い。その分、段間を広めに取る必要がある。

一方「罫線」は記事の区切りをはっきりするための線。縦組の場合、縦の線になる。大きく区切る時は太めにすることが多い。関連した記事の場、あえて罫線を引かないことで、共通感を出すことも。

本ソフトでは、実線だけでなく、点線や２本線、３本線など10種類以上の罫線を用意している。

畳む　記事 自動折り返し

記事は、見出しや画像などの「障害物」に当たると、自動的に折り返す。しかし、そうした障害物がなくても、自動的に折り返すのが「畳む」操作。「折る」とも言う。

これにより、まず記事を折り返しておいてから、罫線を引いたり、見出しを置ける。あらかじめ１行単位で正確に書いた記事を準備しなくても、おおむね予定したレイアウト通りに素材を配置していくことが出来る。

時間の制約が強い新聞編集の現場では、特に突然飛び込んだニュースを収容するため紙面を大幅に組み替える際に必須な操作。もちろん、趣味の新聞作りなど、時間に余裕がある場合でも、この操作でレイアウトをいろいろ変更したりも出来る。

例えば40行の記事を段で右に「畳む」と、10行幅４段分のブロックになる。